

【資料2】 前回審議会でもいただいたご意見とその対応について

審議回ご意見	分野	対応内容
総合振興計画では、文化部分の指標に人数が挙げているが、予算の上では人数以外というのは整合性がとれていないのではないかと。数的な評価を考えれば、やはり参加人員が1番大きな要素になるのではないかと。	指標	人数はやはり指標として欠かせないので、今後もその重要性を挙げながら基本的な指標として使用したい
事業の広報について、都度都度の広報ではなくトータルでアピールする場が必要ではないかと。（一元化）	一元化	センター的機能として、引き続き検討していく。
指標というコマを考えるよりも、今後に説明するための付帯資料として使えるようにするために報告書を見直してはどうかかと。	報告書	以下報告書対応
新たに取り組んだ事項や新たな参加者も成果として報告書に記載し、評価の対象とすべきではないかと。（新規）		報告書の「内容」欄もしくは「成果」欄にて記載を担当課に依頼
発信した履歴などを成果の中に、残しておくというのではないかと。（外部発信）		報告書に外部発信に関わる事項を追加する方向で検討する。
量的な指標と質的な指標が両方あると思う。その上で事業に係る成果と課題は併せてこの報告書に挙げる方がいいのではないかと。（質的評価の向上）		報告書の「成果」の欄を「成果と課題」とする方向で検討する。
アンケート結果抽出などで参加者の意見を掲載してはどうか。（第三者評価・質的評価の向上）		報告書にアンケート等による参加者からの意見を記載する事項を追加する方向で検討する。
文化財事業などは指標になじまないため報告書からの除外はどうか（項目精査）		今回の議題の流れで指標＝報告書になっているが、この報告書の第一の目的は文化芸術振興計画の進捗確認である。については「宝を守る」項目に文化財に係る報告書は必須であると考えため、報告書としては除外しない。
各課から報告が上がる中で、事務局が報告に上げる上げないを判断すべきではないかと。（項目精査）		現年度分に挙げているものについては、全て報告に上げるべき事業と考えている。次年度以降新規事業を加える際は、担当課と話し合いながら報告書に含めるか精査していく。